部門紹介　薬剤科より

当院では院外処方せんを全面発行し、1年半が経過しました。ようやく、病院と保険薬局との連携が進み、スタッフは主に病棟に常駐し、入院患者さんの薬物治療のサポートや薬品の管理を行っています。

入院時に持参されたお薬の内容と数量を確認し、飲み合わせや副作用、ご自宅での管理状況などを医師等スタッフへ情報提供します。また、入院中の薬物治療の内容や、入院前との変更点などをお薬手帳や、退院時情報提供書を用いて患者様（ご家族）へ退院時服薬指導を行い、施設、転院先、保険薬局等へ提示していただくよう説明しています。

チーム医療では、褥瘡・栄養・感染・糖尿病・安全などのチームの一員として、回診、カンファレンスに参加し専門的見地からアドバイスします。

今後も、遠野地域の皆様の安全な薬物治療のために地域連携を強化してまいりたいと思います。オレンジ色のラインが薬剤師です。お気軽にお声がけください。

【薬剤科長　畏岩　明子】

病棟担当薬剤師

退院調整看護師からのごあいさつ

初めまして、今年４月より地域医療福祉連携室　退院調整看護師として勤務することになりました立花　幸です。

当院では今年１月から地域包括ケア病床の新設、レスパイト入院を推進し地域の皆様が安心して在宅で過ごせるように受け入れております。今後も皆様に周知しご利用いただけるよう活動していきたいと思います。

高齢化率の高い地域ではありますが、利用者の方やそのご家族様のことを第一に考え対応されている福祉、在宅関係、介護施設や他医療施設の皆様の熱意を強く感じております。

退院調整看護師としてまだ駆け出しで、皆様にご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、周囲のサポートのもと尽力していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【地域医療福祉連携室　退院調整看護師　立花　幸】

発刊　第6号　　発行日　令和1年 9月 4日

岩手県立遠野病院

地域医療福祉連携室だより

地域医療福祉連携委員長　挨拶

院長　郷右近 祐司

熱中症の発症を心配していた暑い夏も終わり、お盆を過ぎると朝夕涼しくなりすごし易くなりました。暑い最中に院内の冷房をフルパワーで作動させたところ、オーバーヒートで故障し、お盆中の中央処置室での診療は、汗かきかきの状態で行っておりました。その中で意外に威力を発揮したのは西向きの窓に立てかけた葦簀でした。強い日差しを遮る昔からの知恵が大切だったようです。

8月10日から18日までの土日＋山の日＋お盆の休日体制期間は13日、14日を開院日とし、関連医局からの応援、県立病院内の応援により、その冷房の故障以外、大きな事故もなく救急患者さんに対応できたと思われました。

現在は、働き方改革と診療内容の充実という相反するような課題をクリアしていかなくてはならない情勢にありますが、自分たちの病院の問題点をあきらかにし、できることから一つ一つ改善していくことを目標に診療にあたっています。そのために来年の2月には当院初めての病院機能評価の受審を予定しております。今年の2月に導入した電子カルテとともにてんやわんやの状態であり、不手際をご容赦いただくとともに、皆様方からのご指摘、ご助言、ご助力をお願いします。

遠野地区のように人的医療資源に不足を生じている地域では、患者さんたちのニーズを十分に対応できかねている現状がありますが、少ないマンパワーでも協力・連携していくことで可能な限りの診療内容の充実が求められていると考えています。紹介状の作成などで諸先生方にご負担をお掛けしているかと存じますが、院内の医療福祉連携室の充実を図っておりますので、お気軽に声をかけていただければ幸いです。医師への直接の連絡も大丈夫です。

地域包括ケア病床も16床設けており、またレスパイト入院も積極的に受け入れております。地域の病床として有効活用していただけるようお願い致します。また最新のCTが導入されます。それらの検査機器も気兼ねせず活用していただくことも含めて、当地域での連携がすすんでいくことが遠野の医療が充実していくことにつながると考えております。

遠野病院基本理念

私たちは地域のニーズに応え、安心・安全で質の高い医療を届けられるよう努力し、優しく患者さんに寄り添い、笑顔のある病院にします。

運営方針

私たち遠野病院職員は、H3Aの意識をもって、地域医療のために一歩踏み出します。

≪行動目標≫

H heart warming	心をこめて	笑顔と敬意をもって診療に従事します
A aggressive	積極的に	地域の救急医療を担います
A active	活動的に	地域の医療介護福祉連携を中心になって推進します
A academic	学究的に	知識技術の習得のための自己研鑽に努めます

明日の医療人を育てます

遠野病院 オープンホスピタル2019

令和元年７月１３日、遠野病院で初めての開催となる病院開放、「遠野病院オープンホスピタル２０１９」を開催しました。
はじめに、今回当イベントに際し運営に多大なご協力をいただいた遠野市他、関係各所のみなさまに厚く御礼申し上げます。
岩手県三陸防災復興プロジェクト２０１９の一環として開催した当イベントでしたが、一般の方々１１７名のご参加をいただき、初めての開催としては、概ね成功だったと感じています。
当日の主なイベント内容をご紹介します。

看護科では白衣体験、介護体験、手洗い実践を行いました。白衣体験では小さいお子さんからご高齢の方まで幅広い年齢層で笑顔があふれるイベントでした。中でも、子供たちが楽しそうに体験していたのが印象的でした。介護体験、手洗い実践は日常生活でも役立つとか、今後の生活でも生かしていける等のご感想をいただきました。将来看護師を目指しているという高校生も参加していただき真剣に取り組んでいました。

薬剤科では、お薬相談、調剤体験、服薬指導装置「ふっくん」の紹介を行いました。調剤体験はカルピスを使った水薬の調製が人気で、子供たちの体験が途切れることの無い状態で改めてカルピスの人気を実感しました。服薬指導装置「ふっくん」は、遠野市が希望者に貸出している器機で服薬する時間などをセットして、時間になると一包化された薬が出てきてお知らせしてくれるものです。器機から薬を取らないと、家族などに「ふっくん」を通し電話連絡もしてくれるそうです。これは遠野市の職員の方が当日、説明やＰＲ活動にご協力いただきました。

検査科は、顕微鏡での鏡視体験、超音波検査体験を行いました。普段見る事の出来ない検体を検査技師の説明も加えて見ることができるので、参加者からは良い体験ができたとご意見をいただきました。

放射線科では、３Ｄ画像体験、骨密度測定を行いました。民放ドラマの影響もあり、３Ｄ画像体験も好評でした。骨密度測定は、みなさん、大変興味があるようで、終始、体験者が絶えることがありませんでした。

栄養管理室は、体脂肪測定、食品モデルの展示などを行いました。アルコールやカップラーメン、お菓子に含まれるカロリーをおにぎりに換算して表したり、食品に含まれる塩の量を目に見える形で展示するなど工夫を凝らした展示に多くの方々が目を引かれていたようです。

リハビリは、介護予防、疾病予防の体操の紹介を行いました。ここでは一般の方はもとより職員も体験する様子がありまし

その他、医事経営課による電子カルテ体験、病院長による健康講話など様々なイベントを行いました。

最後に、今回初めてオープンホスピタルを開催して得た経験や反省点、ご意見などを生かして、更に地域に開かれた優しく患者さんに寄り添い、笑顔のある病院にして行きたいと思います。今後とも関係各所のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

【主査　佐々木　龍】